

分野： (2) COPDに関する調査研究  
① COPD患者の自己管理と重症化予防

(2)-①

委託業務名：COPD患者に対する個別歩数目標値提供の有用性検証と自己管理法の確立

調査研究代表者氏名：南方 良章

1 評価項目						
5点:大変優れている(A判定) 4点:優れている(B判定) 3点:普通(C判定) 2点:やや劣っている(D判定) 1点:劣っている(E判定)						
	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(2) 研究成果目標の達成度	3人	0人	3人	0人	0人	4.00
(3) 研究計画の妥当性	2人	3人	1人	0人	0人	4.17
個別評価(第3評価):(2)(3)の平均						4.08
(6) 総合評価(第2評価)	2人	3人	1人	0人	0人	4.17
全体評価(第1評価):(2)(3)(6)の平均						4.11

2 記述評価
<ul style="list-style-type: none"><li>・予測式の妥当性はかなり良いようであるが、簡易予測式がどこまで使えるかの一般フィールドでの確認をお願いしたい。</li><li>・アイリシンの研究をもう少し進めてもらいたい。</li><li>・計画の妥当性を高めるためには循環器への配慮が加わると本研究がそのまま実臨床に貢献できると期待できる。COPDでAMIをはじめとする冠動脈疾患により死亡する危険度は欧米諸国よりは少ないが、我が国においても注視することが必要だと考えられる。</li><li>・順調に進行している研究課題である。</li><li>・23年度に解析症例数を増やし、研究の成果を広く一般化できるレベルにすることが期待される。</li><li>・簡易歩数予測式に対し、別コホートでの妥当性並びに精密予測式との再現性が確認できた。</li><li>・次年度の種々の横断的研究の再分析の結果を待ちたい。</li><li>・COPD患者における身体活動性の維持・増進は、我が国における健康寿命の延長に大きく寄与することが期待される。本研究成果は、その一端を担うものと思われる。</li><li>・COPD患者における身体活動量評価に関わる複数の検討結果が全体としてまとめ、患者の自己管理法確立に結びつくことを期待する。</li></ul>